国際文化演習ブロック大学
報告書 2013

北海学園大学人文学部

Brock University

挨拶

北海学園大学
人文学部長
郡司　淳

多文化共生社会のために

国際文化演習は、カナダ・ブロック大学との交流協定が締結された2000年度に開講されて以来、2003年度と2009年度の二度にわたり中止を余儀なくされたものの、今年度までに12回実施され、合計264名の学生を派遣してきました。人文学部では、来年度の新カリキュラム施行にともない、新たにレスブリッジ大学においても3週間の語学・文化研修を実施し、この演習をさらに充実したものとしていく計画です。

かつて明治政府に招聘され、日本の医学界発展の基礎をつくったベルツは、1901年11月の滞日25周年記念祝典における講演のなかで、「西洋の科学の世界は決して機械ではなく、一つの有機体でありまして、その成長には他のすべての有機体と同様に一定の気候、一定の大気が必要なのであります」と述べ、西欧の知識・技術の吸収に急なあまり、これを生み出した文化的背景に目を向けようとしない日本の友人たちに警告を発しております。この警告は、夏目漱石が「現代日本の開化」(1911年）において、「西洋の開化は内発的であって、日本の現代の開化は外発的である」と断じたことにもつながるもので、昨今の教養軽視の世の中を見るにつけ、百年後の今日なお有効性を保っていると考えます。したがって研修に参加する学生には、将来「文化の専門家」として自己のキャリアを築くという大志を胸に、実践的な英語のコミュニケーション能力の取得にとどまらず、ホームステイやトロントへの小旅行などの機会をとおし、彼の地の文化に思いを致してほしいと願っております。国際文化演習が「多文化適応力の養成」を学修テーマのひとつに謳っている理由もまたここにあります。

より多くの人文学部生が、この研修に参加し、将来、多文化共生社会のなかで他者との協同に資する力を身につけることを祈念してやみません。

Kim Meade
Vice-Provost
& Associate
Vice President,
Student Services,
Brock University

Celebrating over a decade of friendship

I am very pleased to take this opportunity to offer my thoughts, and to celebrate the long-standing and friendly relationship between Brock University and Hokkai-Gakuen University.

Here at Brock, there is no doubt that there have been many changes since our collaboration began in 1999. We have enjoyed one of the highest enrolment growth rates of any Canadian university, and in the present year, we are home to 18,000 full-time students pursuing undergraduate, graduate and doctoral degrees. At the same time as our enrolment has grown, we have also increased to almost 80 the number of programs in our faculties of Applied Health Sciences; Business; Education; Humanities; Mathematics and Science; Social Sciences; and Graduate Studies.

Brock has also seen an increase in the number of international partnerships it has around the world, our goal being to develop long-lasting joint ventures with institutions worldwide in order to create valuable study, teaching and research opportunities. To that end, I had the special honour of travelling to Japan some years back in order to officially celebrate three of our partnerships there, and in particular to visit Hokkai-Gakuen University in order to see firsthand the beautiful city of Sapporo, and to enjoy your Yosakoi Festival. This opportunity reminded me that both of our universities are much more than places to study, but we are also heavily committed to offering enriched, safe, inclusive environments where students can form new friendships, gain valuable extracurricular experiences, and become part of vibrant communities.

In fact, on the topic of how our communities have been enriched through our partnership, we at Brock have been continuously honoured by the presence of students from the Faculty of Humanities at Hokkai-Gakuen over the past 14 years, not least because Hokkai-Gakuen students have brought much enthusiasm and energy to our sprawling campus. Moreover the Hokkai-Gakuen students are always the favorites of our teachers and staff in ESL Services, and whether it is the Brock Days Grape Stomp, an ice hockey game at our city arena, or just a tour of the Niagara Region, the Hokkai-Gakuen University students have become most enthusiastically involved in all aspects of university and local life during their all-too-short stays with us.

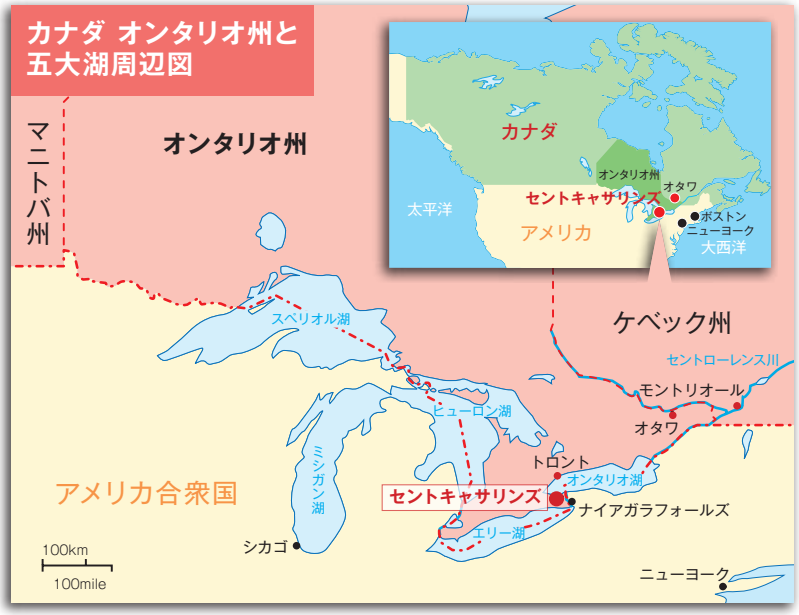
So it is my fondest hope that as we prepare for our 50th anniversary celebrations, we will continue to build on and develop our international friendship with Hokkai-Gakuen University long into the future.

ブロック大学及び St. Catharines 市の紹介

St.Catharines 市

カナダのオンタリオ州南西部に位置するセントキャサリンズ市（City of St. Catharines）は、ナイアガラ地域では最も大きな都市です。果樹園やぶどう園、ゴルフコース、史跡などに囲まれ、緑あふれる景観から、ガーデン・シティ（The Garden City）とも呼ばれています。手入れのゆきとどいた美しい公園と、200 を超える温室があり、カナダの温室産業の基地ともなっています。

トロントからは車で 1 時間、ナイアガラの滝には 20 分弱と近く、ナイアガラ観光に適した都市でもあります。また、トロントとアメリカのバッファローの中間という位置でもあり、アメリカからも多く訪れます。ワイナリーは 45 以上と言われ、カナダ最大のワイン産地としても知られています。



セントキャサリンズ市

ブロック大学

ブロック大学とは

ブロック大学は、上記セントキャサリンズ市にある総合大学で、1964 年の設立です。大学名は、1812 年の戦争（War of 1812）の軍功で名高いアイザック・ブロック（Isaac Brock）の名にちなんでいます。中規模ながら充実した学術プログラムが国際的にも評価され、応用健康科学部、経営学部、教育学部、人文学部、数学科学部、社会科学部及び大学院が設置されています。各種受賞経歴のある教授陣による教育や、実践的な少人数セミナー、また、最先端の運動競技施設を備えていることも特徴です。オンタリオ州では高い就職率でも知られ、これまでに 70,000 人以上の卒業生を送り出しています。卒業生の活躍は、カナダ国内にとどまらず、世界各地に広がっているそうです。また、留学生向けには英語集中講座などがあります。

※ブロック大学公式 HP　http://www.brocku.ca/

Contents

1 … 挨拶
2 … ブロック大学及び St. Catharines 市の紹介
3 … 海外研修事業の概要
4 … 国際交流委員会からの情報
5 … ESL 授業
6 … アクティビティ
7 …ブロック大学研修報告
8 …海外研修事業の歴史
9 …参加者エッセー
13 … Why Brock?

海外研修事業の概要

ブロック大学と本学とは 2000 年に交流協定を締結し「国際文化演習」を実施しています。以下、その目的と特徴を記しておきます。

今日は、社会の多文化化にともない、日常語としての英語の普及および実践的な多文化適応力の養成が要求されています。「国際文化演習」ではそれらを身につけるため、９月上旬からの３週間、ブロック大学の I.E.L.P.（Intensive English Language Program：英語集中講座）に人文学部２年次以上の学生約 25 名を派遣しています。英語圏の大学での就学に必要な英語運用能力を習得することが主要な目的ですが、ホームステイやナイアガラへの小旅行・ワイナリー訪問・カナダスタイルのキャンプファイヤーなどの文化活動を通じて、カナダの文化・社会などの知識を得られることも収穫の一つです。

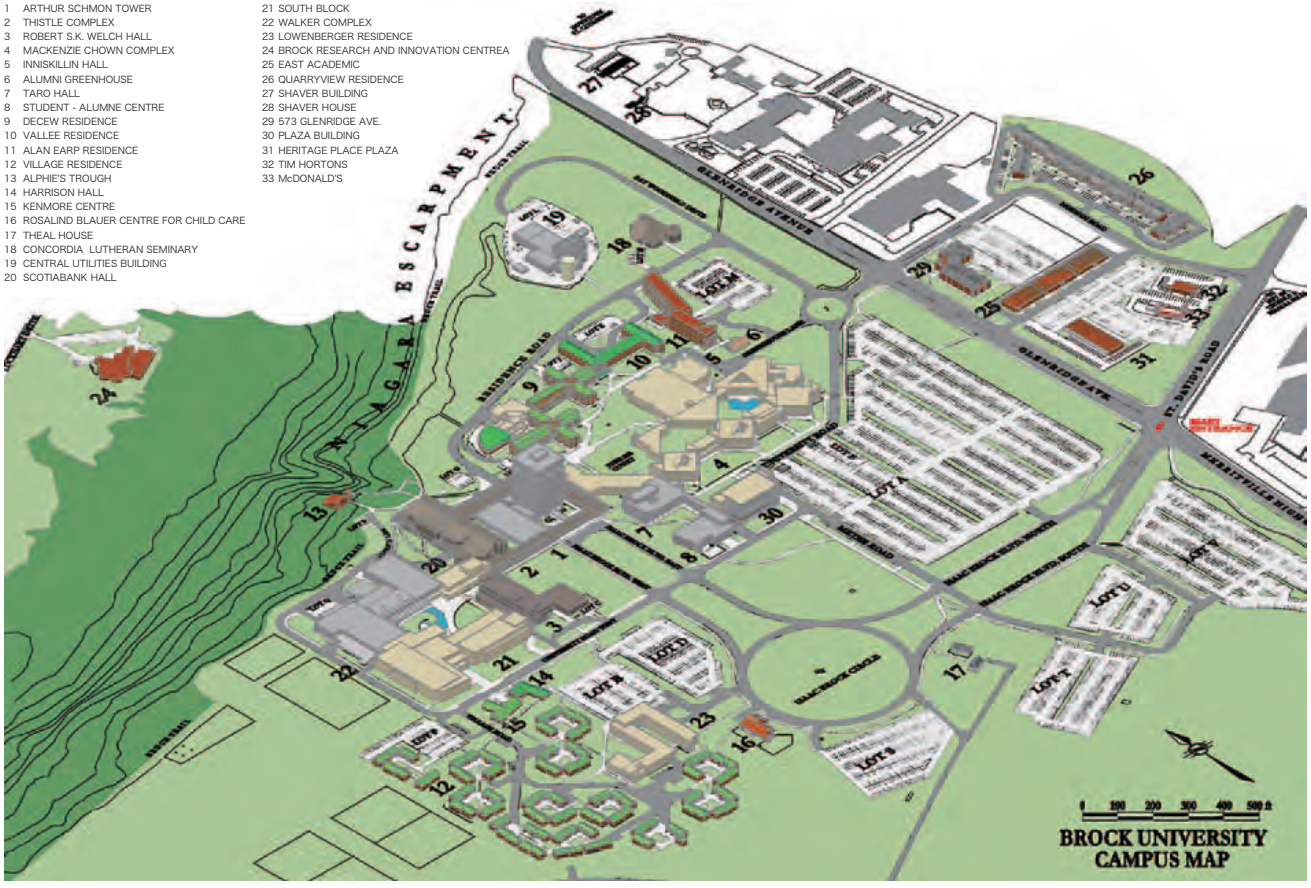
また、研修を通じて多文化主義を実体験できることも特徴です。研修期間中、学生たちは、フランス系カナダ人や、メキシコ、中東、アジア各国からの留学生を中心とする多様な文化的背景を持つ人々と授業を受けることになります。さまざまな国の学生たちと友好を深め、視野を広げる機会になり、積極的な授業参加や発言の場ともなっています。

【授業内容例】

- 受講生はプレイスメントテストにより６つのレベルに分けられ、それぞれのレベルでリーディング、ライティング、スピーキング、リスニング、グラマーの５科目を３週間にわたって受講します。
- 2002年度からは、「国際文化演習」を半期２単位の授業科目として位置付け、単位認定については、研修終了後にブロック大学より各学生の成績評価が送られ、委員や引率教員の評価に基づき、学部教授会にて認定しています。

※ 2014 年度以降入学生からは科目名が「英米文化特別演習」に変わり、１年生から開講になります。

ブロック大学キャンパスマップ



国際交流委員会からの情報【研修までの流れ・結団式など】

■研修までのながれ

４月中旬
- **第１回説明会**
  （プログラム紹介＆仮申込書の説明）

下旬
- **仮申込締め切り**

下旬
- **第２回説明会**
  （本申込書《本学＆ブロック大学》の説明）

５月中旬
- **本申込締め切り**

中旬
- **参加者発表**

下旬
- **第１回オリエンテーション**
  （スケジュールの案内＆パスポート申請についてなど）

６月中旬
- **ブロック大学への申込書提出**

下旬
- **第２回オリエンテーション**
  （保険、外貨両替についてなど。引率者紹介）

７月下旬
- **第３回オリエンテーション**
  （過年度参加学生による質疑応答、英語表現の確認など）

８月下旬
- **第４回オリエンテーション＆結団式**
  （ホストファミリー情報、最終注意事項など）

９月上旬
- **研修実施**

10月下旬
- **報告書提出**
  （研修を終えてのエッセー）

●仮申込用紙

●パスポートと Homestay Tips 冊子

■第４回オリエンテーション & 結団式

ESL 授業【プレースメント・授業内容・修了式等】

ESL クラス　平日　午前 8:00 ～午後 4:00

この時間内で基本的に授業を行いますが、アクティビティなどスケジュールによって変更も有り得ます。
学生は、５つ（リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング・グラマー）のクラスを受講します。

ブロック大学でのオリエンテーション

◉自身のレベルに応じて学習

プレイスメントテストのあと、レベル０（英語入門クラス）からレベル５（大学入学準備クラス）までの６つの段階に習熟度別にクラス分けされます。

◉海外あらゆる国からの学生と共に学習

アジア・中東・中米・南米などから来ている学生たちと共に学びます。

◉授業は、英語だけを使用

世界中から学生が集まるため、お互いにコミュニケーションを図る際は、英語を使用しなくてはなりません。授業中だけではなく、大学構内では他の言語を使用せず、英語だけを使うよう勧められています。

◉授業は、主に一般教養

多くの学生の目標は、一般学生としてブロック大学に入学できるような高いレベルのクラスを修了することです。もちろん、講師はできる限り楽しい内容の授業を行いますが、かなりの量の課題もあり、正確さ、流暢さに重点をおきます。

【リスニングクラス】

中級レベルは、会話・インタビュー・簡単な講義などを聞きとります。上級レベルの学生は、講義形式による一般的なリスニングを受講します。最上級レベルのクラスを修了するころには、学部講義科目を受講しながらノートをとることができるようになります。

【スピーキングクラス】

中級レベルでは、日常生活や日常会話を再現するようなスピーキング課題が中心です。上級レベルの学生は、学術研究発表を行います。

【リーディングクラス】

中級レベルは、一般的な理解力や語彙力を伸ばすことを目指します。上級クラスでは、批判的理解に焦点を合わせています。また、すべての学生は速読クラスに参加します。

【ライティングクラス】

初級レベルは段落構成を学び、中級レベルは小論文を書きます。上級レベルは、参考文献や引用リストも用いながら、論拠の明確な論文のまとめかたを学びます。

【グラマークラス】

すべてのレベルで、英文法の理解力を深めていきます。正確で適切な表現を用いながら文法構造を身につけていきます。

ブロック大学の教室で

アクティビティ【トロント小旅行・遠足等】

より流暢な英語力を身につけるには、教室で英語を学ぶだけでは不十分です。そのため、アクティビティは、ブロック大学 ESL プログラムの重要な要素です。さまざまなアクティビティが、授業終了後や土曜日など、ほぼ毎日行われます。アクティビティに参加する中で、学生たちは授業で学んだ英文法や英単語を実践的に聞く機会に恵まれます。また、アクティビティを通じて、適切な英語の使い方を実際に経験していきます。そしてそれは、もちろん多くのカナダ文化に触れる機会にもなるのです。

いくつかのアクティビティは、すべての留学生に提供されています。たとえば、ナイアガラの滝を訪れること、レイクサイドパークでバーベキューを楽しむこと、ボーリング、スポーツ観戦などです。他方、ナイアガラ・オン・ザ・レイク観光や、セントキャサリンズ博物館への訪問などは、北海学園大学の学生にのみ提供されています。最大かつもっとも楽しみなアクティビティは、トロントへの日帰り旅行です。学生たちは少人数のグループに分かれ、それぞれで市内を散策します。

これらのアクティビティ（年によって変わる可能性もありますが）の基本的な費用は、すでに旅行代金に含まれています。学生たちは通常、大きなツアーバスか小さな黄色いスクールバスに乗って移動します。バスに乗り遅れないよう、自分自身できちんと時間管理をすることも大切です。

アクティビティ管理者からは、さらに追加でブロック大学キャンパス内や周辺で行われるアクティビティについても案内されます。北海学園大学の学生は、ブロック大学の正規学生と共に、募金のボランティア活動を行ったり、無料コンサートや、キャンパス内のパブで行われるパーティーなどに参加したりすることもできます。

これらのアクティビティへの参加は、友達作りやカナダの文化を学ぶこと、英語への没頭、また単にリラックスして楽しむことなど、多くの機会をもたらしてくれるでしょう。

トロント訪問

①ぶどう潰しのお祭り　②ワイナリー訪問　③ナイアガラの滝訪問　④セントキャサリン博物館訪問

◉アクティビティ時刻表　［ブロック大学にて研修：2013年9月3日～20日］

Sunday	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday	Saturday
9/1	2 ***Civic Holiday: University is Closed***	3 9:30–11:00am Welcome Orientation 12:00–2:00pm Entrance Testing 2:00–3:00pm Hokkai Activity Orientation	4 9:30am Check-in at International Centre 10:30am–12:00pm; 1:00–2:30pm Campus Orientation	5 7:45am Pick-up Class schedule 8:00am–4:00pm Class	6 8:00am–4:00pm Class	7 1:00pm Afternoon trip to Niagara Falls 6:00–9:30pm Buffet Dinner and Greg Frewin Magic Show
8	9 8:00am–4:00pm Class 4:00pm–5:30pm St. Catharines and Welland Canal Museum Tour	10 8:00am–12:00pm Class	11 8:00am–4:00pm Class 4:30pm Walking tour of downtown St. Catharines	12 10:00am Board bus downtown at Garden Park for an all-day trip to Toronto 7:00pm Return to St. Catharines	13 8:00am–12:00pm Class 12:30pm Niagara-on-the-Lake winery Tour & Tasting 2:45pm–5:30pm Canada One Outlet Mall	14 2:30pm Tour Historic Fort George in Niagara-on-the-Lake 7:00pm Niagara Icedogs Hockey game
15	16 8:00am–4:00pm Class 4:00pm Hike at the Glenridge Naturalization Site	17 8:00am–12:00pm Class 2:00pm Meet & Greet with St. Catharines Mayor Brian McMullan	18 8:00am–4:00pm Class 4:00pm Bowling at Parkway Lanes	19 8:00am–4:00pm Class	20 11:00am Closing Ceremonies 12:00pm Farewell lunch at a local restaurant	21 Meet at the International Centre for bus to the Toronto Airport

REPORT

ブロック大学研修報告

●引率教員 人文学部教授 上杉 忍

概要

13名の学生と２名の引率者は９月１日に羽田を経由して成田空港を出発。同日にカナダ、セントキャスリンズ市ブロック大学に到着し、先方のスタッフとホストファミリーの歓迎を受けた。翌２日月曜日は休日のため、学生たちはしばしの休息を取ることができた。火曜日、早朝よりガイダンスを受けたのち、プレイスメント・テストを受け、レベル３・２・１のレベルのクラスに振り分けられた。

学生たちは朝８時から午後４時までの時間帯に、休憩や昼食時間を含めて、時間割に沿って授業を受けた。時間数としては、１クラス 50 分として、それぞれ英語の４スキルを受講した。その他にブロック大学 ESL では、授業以外に様々な課外行事を企画し、歓迎ピクニックに始まり、ナイアガラの滝やトロントへの小旅行、ワイン工場見学、アウトレット･モールでの買い物、ジョージ砦訪問、アイスホッケーの観戦、グレンリッジ公園へのハイキング、セントキャサリンズ市長公式訪問、ボーリング競技参加、ウェーランド運河･セントキャサリンズ博物館見学など盛りだくさんなプログラムが用意され、充実した研修を行う事ができた。

本年度のホームステイ・プログラムは大きなトラブルもなく、学生たちの評価も全般的に良かった。全員がホストファミリーに感謝の気持ちを込めた文章をカードに書き込み、手渡した。帰国の際にはホストファミリーが見送りに来てくださり、涙を流して別れを惜しむ姿も目立った。

多くの学生が、主にアジアからの留学生と仲良くなり、互いにサンキュー・カードを交換したり、様々な形で交流を深めている姿が見られた。

学生の様子

ブロック研修１週目は学生たちの間に様々な戸惑いが見られた。最初の日はガイダンス、テスト、学内ツアーなど、次々とスケジュールが展開し、またどこへ行っても長い待ち時間で、日本人には不慣れな無秩序な行列の作り方などに戸惑い、時差の影響もあり学生の疲労感が募っていた。英語を使う環境への適応やホストファミリーとの出会い、ブロック大学への行き帰りの不慣れなバス通学など、戸惑いの要因は多様であるが、基本的にはみなこれをよく耐え抜き、３～４日が経過する頃には学生の間に、落ち着きが感じられるようになった。

２週目頃から、北海学園大学の学生たちと海外からの留学生のクラスメイトとの交流の様子が見られ、新しい友人たちとの片言でのコミュニケーション、ショッピングなど、英語を共通語とする新しい人間関係を作る意欲的な姿勢が見られるようになった。３週間の研修の中でも、２週目はフルに勉強できる週であり、学生たちは課題に追われつつも、ブロック大学での研修に励んでいた。

しかし、このころになると慣れから来る油断が生じやすいことを考慮し、できるだけ一人では行動しないこと、特に見知らぬ人物と一人では付き合わないなどの注意を喚起した。特に問題は起こらなかった。

３週目は最後の週であることから、学生たちはホストファミリーとの時間を大切にする傾向が見られ、ＥＳＬの課外企画への参加よりも、ホストファミリーと英語で会話しながら時間を過ごすことを望む学生も増え、企画への不参加は、事前に報告することを条件に認めた。

13名の学生とそれぞれのホストファミリーとの関係は多岐にわたり、家族の一員として親密になっている学生もいれば、ほぼ下宿屋のような環境で過ごしている学生もいたが、学生同士および教員間のメール通信でお互いに状況を知合い、精神的安定をはかった。３週間を通して、体調を崩して欠席した学生は一人しかおらず、全体としては、しっかりと語学研修ができたように思われ、多くの学生がその「自信と満足」を語っていた。中には、宿題をこなすために睡眠時間を数時間しかとらずに頑張ったという学生もいた。

研修成果

他国に比べて、英語運用能力が低いとされる日本人だが、北海学園大学の学生たちが他の留学生たちと限られた英語力を駆使して必死にコミュニケーションをとっている様子を見ていると、北海学園の学生が成長していく姿が感じられ、教員として誇らしく感じた。特に、セントキャサリンズ市長に対する公式訪問の際には、質問を求められ、経営学部の学生が進んで質問しているのに刺激され、人文学部の学生も必死に英語を組み立て、質問を繰り返していた姿には感動した。その質問の内容的な質の高さを市長がしきりとほめていたのが忘れられない。お互いに流暢ではない英語を介して意志の疎通を図り、そこからお互いを信頼しあう関係を築いていく学生たちの様子に、ブロック研修の真の成果があったと思う。「あの市長さん、とっても優しいいい人だったね」との学生のごく自然な感想がそれを物語っているように思う。

今後の課題

10年続いてきたブロック研修は、転機を迎えているように思われる。他大学の学生は、３カ月滞在して、IELP の１セッションを終了する。我々の３週間の研修は、学生たちに本格的な語学研修への意欲を生み出すきっかけを与える役割を果たしてはいるが、今後は、これに加えて、１セッションを終了できるプログラムを加えることが必要であると考える。

海外研修事業の歴史

■人文学部国際文化演習（ブロック大学研修）実施一覧表

	研修期間	引率教員	参加学生数	委員
第１回	平成12（2000）年度 7月7日～8月13日	宝利尚一 米坂スザンヌ	18名 （男子7名、女子11名）	米坂スザンヌ 岩崎まさみ
第２回	平成13（2001）年度 7月8日～8月12日	井上真蔵 岩崎まさみ	22名 （男子5名、女子17名）	米坂スザンヌ 岩崎まさみ
第３回	平成14（2002）年度 7月7日～8月11日	桑原俊一 上野誠治	20名 （男子3名、女子17名）	米坂スザンヌ 岩崎まさみ
—	平成15（2003）年度　SARSの流行により中止			米坂スザンヌ 岩崎まさみ 大石和久
第４回	平成16（2004）年度 9月4日～9月26日	米坂スザンヌ 岩崎まさみ	25名 （男子2名、女子23名）	米坂スザンヌ 岩崎まさみ
第５回	平成17（2005）年度 9月4日～9月25日	栗原豪彦 米坂スザンヌ	24名 （男子4名、女子20名）	米坂スザンヌ 岩崎まさみ 中川かず子
第６回	平成18（2006）年度 9月3日～9月24日	中川かず子 イアン・マンビ	20名 （男子6名、女子14名）	米坂スザンヌ 岩崎まさみ 中川かず子
第７回	平成19（2007）年度 9月2日～9月23日	上野誠治 池内静司	22名 （男子4名、女子18名）	米坂スザンヌ 岩崎まさみ 中川かず子
第８回	平成20（2008）年度 9月1日～9月21日	桑原俊一 本城誠二	23名 （男子0名、女子23名）	岩崎まさみ 上野誠治
—	平成21（2009）年度　世界流行のインフルエンザにより中止			岩崎まさみ 上野誠治
第９回	平成22（2010）年度 9月5日～9月26日	岩崎まさみ ウィリアム・ケイ	27名 （男子5名、女子22名）	米坂スザンヌ 岩崎まさみ 中川かず子
第10回	平成23（2011）年度 9月4日～9月25日	田中洋也 ウィルマ・ルース	26名 （男子5名、女子21名）	米坂スザンヌ 寺田吉孝
第11回	平成24（2012）年度 9月3日～9月23日	岩崎まさみ ジェレミ・ブシャー	24名 （男子8名、女子16名）	米坂スザンヌ 田中綾
第12回	平成25（2013）年度 9月1日～9月22日	上杉忍 ブリックリン・ゼフ	13名 （男子3名、女子10名）	米坂スザンヌ テレングト・アイトル

ESSAY
参加者エッセー

国際文化演習を終えて

木村 安里
KIMURA Anri
1 部英米文化学科 2 年

私はカナダに行って少しでも英語の能力を向上させたい、日本とは異なる文化を実際に体験したいと思い、この研修に参加しました。しかし、カナダに着いてからは本当にこれから３週間やっていけるのだろうかと不安な思いでいっぱいでした。そんな私にホストマザーはとても優しく接してくれて、私の片言の英語を辛抱強く聞いてくれました。そのおかげで私はすぐにカナダでの生活に慣れ、充実した３週間を過ごすことが出来ました。

ブロック大学の授業では、他の国からの留学生と一緒に英語の授業を受けました。私のクラスには中国とブラジルからの留学生がいましたが、皆積極的に質問や思ったことを発言していて、最初は圧倒されました。しかし、私もこのままでは来た意味がないと思い、自分から発言するようにしました。授業以外でも休み時間にクラスの人と交流し、英語で様々な国の人と話す楽しさを改めて実感しました。

この研修を通して、英語や異文化の他に学んだことがあります。私は研修中悔しかったことを書き出して次は絶対に同じことはしないと思って過ごしていました。お店で注文するときどのように言えば英語の発音が悪くてもお店の人に伝わるのか、前の人が注文するのを聞いて真似をしたりしました。そうやって、日本ではあまり考えないことを研修中は３週間しかないという思いからやっていました。自分はあのとき何ができなかったからあの状況になったのかという反省と実践を繰り返した３週間だったとともに、自分の中の変化を感じた３週間でした。この経験はこれからの生活で何をするにも大切なことだと思うので生かしていきたいと思います。

修了証書授与式

そしてこれから研修に行く人には是非自分からいろんな人と交流してほしいと思います。行っただけでは得られるものは少ないと思います。私も帰る頃になってまだまだ積極性が足りなかったと思いました。せっかくの機会を無駄にせず、有意義なものにしてください。

ESSAY
参加者エッセー

英語による国際交流

會木 秀一朗
AIKI Syuichiro
1 部英米文化学科 2 年

カナダ、ブロック大学での研修で過ごした３週間は全てが初めての体験であった。この研修でカナダへ行く前まで海外へ渡航した経験がなく、ホームステイ、外人のみの環境、異文化との交流など、私は当初この状況に慣れることができるのかどうかとても不安だった。しかし、実際に研修が始まりクラスに参加していくと、外国人の友人もでき、カナダでの生活にとけこんでいった感覚をよく覚えている。ダウンタウンを一回りすることや、買い物といった簡単な行為がすべて私にとって勉強の機会であった。

私の所属したクラスには、中国人、ブラジル人、韓国人がいた。中国人の英語会話能力に驚かされながらも、積極的にクラスに参加できたことは素晴らしく、日本では行う機会の少ないディベートも、自分の意見を英語で的確に表現し、反論や意見を述べる難しさを感じながら楽しむことができた。中国人や韓国人とも会話をし、お互いの国が持つ各国の人々に対して抱いている意識や偏見、その理由などに色々なことについて意見交換できたことは、私にとってとても有意義であった。英語を用いることにより、言葉が阻んでいたコミュニケーションの壁を乗り越えられることに感動し、国際交流とはこういうことなのだと実感した。

研修中、英語のみの環境に身を置いたことで自分に今なにが足りていないのかを理解することができ、コミュニケーションツールとしての英語は現代に生きる我々に必要不可欠だと再確認できたことは大きな成長の一つである。

このブロック研修で得た経験をさらに生かすため、英語をさらに学び、国際社会で英語を生かした仕事につくために努力しようと考えている。このブロック大学での三週間の経験は一生に残る素晴らしい経験となるだろう。海外に興味のある学生にぜひ行って、これらを体感してきてほしい。

ぶどう潰し、「ぶどう」まみれ

ESSAY
参加者エッセー

私の価値観を変えた三週間

日吉 杏奈
HIYOSHI Anna
1 部英米文化学科 3 年

私にとってカナダは初めての海外ではありませんでしたが、カナダで過ごした３週間は毎日が刺激的で一日一日が濃くとても充実していました。まずカナダで一番に感じたことは人がとてもあたたかいということです。例えば、バスひとつ乗るにしても、*Hi!* や *Hello!* など運転手とあいさつを交わします。慣れないカナダでの慣れないバス通学や移動に不安を抱いていた私でしたが、すぐに慣れることができたし、むしろ見知らぬ人と気楽にあいさつを交わすことがとても気持ち良いことだと感じることができました。また、ホームステイ先では、あまり口数が多くなかった私を快く歓迎してくれ、気を遣うわけでもなく本当の家族のように接してくれたので、本当に居心地がよかったです。

これはホストマザーから教わったことですが、カナダでは言葉にすることの大切さを身に染みて感じました。日本では言葉にしなくてもなんとなく伝え、相手の意思をくみとる文化がありますが、カナダでは思うことがあるなら態度ではなく言葉に表さなければ通じません。このことをきっかけに、ホストファミリーとの距離も縮まり大学の授業内でも積極的に発言できるようになりました。クラスメートは中国人が大半を占めていましたが、北海道を知っている人や日本のアニメや漫画が好きで日本についてたくさん質問してくる人もいて、自分は日本のことぜんぜん知らないんだなと思い、恥ずかしくなりました。ですが同時に、「いただきます」の文化など、「日本ってやっぱりいいな」と思うこともあり、もっと自分の国に誇りを持つべきだとも感じました。

この語学研修では、もっと英語が話せるようになりたいと率直に思ったし、今後は旅行やボランティアなどいろんな方法で海外に行って、世界の文化など自分自身で感じたいと思いました。

ナイアガラの滝

ESSAY
参加者エッセー

挑戦のスタート in Canada

榎 彩香
ENOKI Ayaka
2 部英米文化学科 2 年

カナダの文化で特に大きな違いを感じたのはやはり食生活です。例えば、カナダの野菜の食べ方についてです。日本では野菜はサラダにしたり温野菜、炒めものにしたりして食べることが一般的ですが、カナダは違いました。カナダでは、ニンジンを生で食べるところがかなり多くの家で見受けられました。幸い私のホームステイ先では生の野菜は出てこなかったのですが、他のホームステイ先の人は結構苦戦していたようでした。それに加えて、果物を丸ごと一つ昼食として渡されたりすることもありました。他にも日本とは違うのだということを再認識することもありました。たとえば、コメもまた日本とは違い、あちらではほとんどの家がタイ米を使用していました。

さらに食べ方の文化についても日本とは大きく違いました。カナダでは、基本的にお皿を持って食べるということはありません。スープなどは、スプーンを使って、お皿は置いて食べるのが普通です。直接お茶碗に口をつけて食べるのは行儀が悪いのだそうです。私がそのような行動をしていた時、ホストマザーがそのことを教えてくれました。しかし、私のホストマザーは「これは間違いではなく違いなのよ」と優しく私をフォローしてくださいました。私は今でもこの言葉が印象に残っています。その他にも、カナダは調味料やおかずが手元から遠くにある時は、自分で手を伸ばしたり立って取るのではなく、その近くにいる人に「○○を取ってくれませんか。」と頼むそうです。私は食卓を通して様々な文化をとても学んだと感じています。

３週間の研修期間を終えて、今私が感じることは、もっと向上したいという気持ちです。楽しかったことも事実ですが、私はもっと自分は頑張れたと思いました。私の留学はこれで終わりではありません。更なる目標を目指して、いつか新たな国を訪れるつもりです。

ナイアガラ・ダウンタウン

Why Brock?

An Interview with Norma MacSween, Director of ESL Services

By Bricklin Zeff, Faculty of Humanities

First, please tell me a little about Brock University:

Bricklin Zeff
Faculty of Humanities

How many students attend the whole university?

We have 18,500 students. It is a mid-size university in Canada.

Who is Mr. Brock and when was the school founded?

General Sir Isaac Brock. He stopped the American invasion in the War of 1812. His dying words were "Surgite! Push on!" which became Brock University's motto. Brock University was founded in 1964.

About the program:

Norma MacSween
Director,
ESL Services

How long have you been doing this program?

The ESL Department started in 1982, 31 years ago.

How many students do you have in this program?

We have 500 students per term, and there are three intensive programs a year.

How many different countries do the students come from?

They come from fifteen different countries including: Saudi Arabia, Libya, Korea, Venezuela, Mexico, Germany, Italy, Thailand, Taiwan, Brazil, Japan, the Philippines, and China.

How many teachers are there in the program?

There are 20 full time instructors, 12 permanent part time instructors, and 15 part time instructors. That makes 47 instructors and a permanent academic administration staff. This includes 5 academic coordinators who coordinate assessment, quality of teaching, activities, and student services with counseling. Also, student volunteers that serve as cultural assistants take the students on activities.

Can you tell me about some of the classes that the students attend?

It is a skills based approach which is very different than other places that I have worked. Students take 5 classes a day with 5 different teachers. We focus on Reading, Writing, Listening, Speaking, and Grammar. The very first day they take a placement test and they are placed in classes based on that test. But then they have the rest of the week to see if it is a good fit for them. The instructors give diagnostic tests and figure out if anybody is misplaced. Most of the students are jetlagged on that first day and don't really know the test, so at the beginning of the second week we may see a few class changes.

What are some of the activities the students participate in while they are here?

It depends on the time of the year. Now we are coming into grape harvest season. We have the "Grape Stomp" which is a fun activity at the University. The students also make short trips to locations around St. Catharines. They also do activities such as bowling or maybe go see a local hockey game. Of course, they go to Niagara Falls and Toronto. Some groups may go to a winery or to historic sites such as Fort George, which is the historic site of a famous battle.

There are many ESL programs attached to various universities throughout Canada. What is it that makes Brock University's program special?

It has a solid quality because it has been around for a long time. We have a large full time instructor staff that has all the professionals working together to help develop and improve the curriculum. Also the full time administration staff that is responsible for managing the teachers gets involved with the students. Also we have a full time employee that is responsible for the homestays and evaluates each family to make sure they provide the students with what they need. Brock has an exceptional commitment to this program.

ブロック大学 ESL Services 担当者グループ

ブロック大学のキャンパス

How are the families chosen for the homestays?

There is a whole screening process that happens. First of all, the families apply to participate. A lot are through "word of mouth" where other homestay families recommend someone to participate. There is not an open advertisement because you don't know what you are getting. A family fills out an application form and is given a police record check. After that our coordinator sets up an appointment and goes to the home and visits with the family and takes a look at the facilities. If that stage is OK, then we invite the families to an orientation and let them know what they are getting into, what is expected. At that point they can decide if it is something they want to do. Then we match them up, but great care is taken, especially with new families in particular to make sure there are no complaints.
At the end of the session we ask students to fill out an evaluation form. We take those very seriously.
If there are any problems during their stay we encourage students to speak to someone on staff. Sometimes, it is just a different family structure, a different style. Both sides have to work together.

セントキャサリン市長に質問している風景

逃亡奴隷ハリエット・タブマンが通った教会見学

What single thing would you recommend our students do in order to prepare themselves for this program?

Students should open their mind, because everything is going to be different. They should ready themselves for an experience. The students come here and get into small groups but they need to participate in the international community. They should talk to as many people as they can and do as many activities as they can and they will be richer for it.

Personally, what aspect of your job here do you enjoy the most?

People. Meeting people from around the world who are coming to Brock University. I just adore students. As much as possible I like to be able to go out and talk to the students in the hall and the lunchroom. That's why we are all here!

国際文化演習ブロック大学
報告書2013

平成26年3月発行

北海学園大学　人文学部

〒062-8605　札幌市豊平区旭町4丁目1番40号
TEL：011-841-1161（内線2132）
FAX：011-824-7729
北海学園大学 URL：http://hgu.jp/
北海学園大学人文学部 URL：http://human.hgu.jp/

edit：Labbott